

研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成26年10月13日（火）
学力アップ部

2年1組の子どもたち、尾形先生ありがとうございました！

2年生の子どもたちが規律正しく、一生懸命に勉強している姿は、とてもすばらしかったです。友達が発表する時に、全員が一斉に体を向けて、しっかりと聞くことができていました。発表している子どもは、きっと「聞いてくれている」という安心感をもつことでしょう。また、尾形先生の温かさと細やかな指導をたくさん見ることができ、多くのことを学ばせて頂きました。どうもありがとうございました！

【単元名】 音読劇をしよう

【教材文】 「お手紙」 作アーノルド・ローベル

【本時目標】

- かえるくんから手紙の内容を聞いたがまくんの気持ちの変化と一緒に手紙が来るのを待つかえるくんの気持ちを読み取ることができる。
- がまくんとかえるくんの様子や気持ちが伝わるように、読み方や動作を工夫して役割読みができる。

【本時展開】

1 学習課題をつかむ。

(1)前時学習を想起する。

- 前時学習した場面で、がまくんの様子や気持ち、読み方や動きについて振り返る。

- ・あきらめの気持ち
- ・怒ったような気持ち

・既習図の掲示

(2)本時のめあてをつかむ。

がまくんの気持ちはどう変わったか読み取り、読み方を考えよう。

2 学習場面を音読する。

(1)役割読みをする。

- ・音読をする

3 がまくんの様子や気持ちを読み取る。

(1)がまくんの会話を手がかりに、がまくんの様子や気持ちについて考える。（表情図とハート図の活用）

- ・「でも、来やしないよ」→あきらめている
- ・「きみが」→おどろいている、どんな手紙かな
- ・「ああ」→うれしいな
- ・「とてもいいお手紙だ」→うれしいな。ありがとう

(2)がまくんの気持ちの変容について考える

- 手紙を待つはじめの場面と今とを比べる

(3)どうしてがまくんの気持ちが変わったのか、手紙の内容を手がかりに考える。

- ・手紙をもらったから
- ・手紙の内容を知ったから

4 読み取ったことをもとに読み方や動作の工夫について話し合い、役割読みをする。

(1)がまくんとかえるくんの読み方を考える。

5 本時のまとめをする。

まとめ

かえるくんが手紙に書いたことばを聞いて、がまくんは、とてもうれしい気持ちになった。



【既習図による振り返りの様子】



【音読する様子】



【書く活動の様子】

（尾形先生の自評）

- がまくんとかえるくんの両方の気持ちを読み取ることをねらいにしていたが、がまくんの気持ちを読み取ることに絞って授業をした。
- やりたいことが多すぎて、時間的に厳しく、最後までいくことができなかったのも、ねらいを達成できなかったと考える。

【協議会で話し合ったこと】

- 子どもたち「聞く・考える・話す」の活動すべてよくがんばっていた。日常の指導の成果である。
- 一人一人の発言に対してきちんと意味づけをされており、とても温かい指導であった。
- ハート図では、大きさを比較させるより、ハートの数を増やしていくことで、気持ちの高まりを表してもよかった。また、ハート図と表情図の2つを活用されたが、どちらか1つでよかったのではないだろうか。
- 子ども一人一人に対して、丁寧ですばらしかった。表情図等を使うなら、前もって経験させておくことも大切である。
- 表情図は、絵から先に描かせてもよかった。掲示物の仕方等、勉強になった。
- 単元を貫く言語活動では、全校音読発表会を設定しており、すばらしい。また、Eくんの発言に対して、とても温かい声かけをされた。とても学ばせてもらった。
- 「おどろき→わくわく→感動」の3つの気持ちの全てを書かされたが、「感動」の所を中心に発問され、書かせ、交流することで、時間的な解決ができただろう。
- 表情図をまず描かせ、その理由を問うことで、一人一人の感じ方の違いや叙述に立ち返ることができたであろう。
- 音読の場面では、はじめの「ああ」と終わりの「ああ」を比較して、音読すると思う。
- 子どもの学習プリントと同じ物を毎時間掲示され、振り返りやすいように、音読しやすいようにしてあり、すばらしかった。
- ハート図の役割は、表情図の「にこにこ顔」のちがいを表すためのものであり、意図がよく分かり、有効な手立てであった。
- 叙述そのものを気持ちとして書いているので、もっと想像を広げていくことが大切である。

【馬渡指導主事の主な指導・助言】

とてもいい子どもたち、学習規律もよく定着し、ペア交流でのかかわり方もやさしかった。尾形先生の包み込む温かさとやさしさのためにそうなっている。

☆単元を貫く言語活動

- ・毎時間の学習が単元のゴールにつながっていることを子ども自身に意識させること

☆教材解釈の必要性

- ・「何を教えたいのか（目標）」、そのために「どのように教えるのか（方法）」を教師が教材研究を通して明らかにしておくこと

☆発問の焦点化

- ・子どもの意欲を高め、思考を活性化させるために、発問を焦点化すること
例）×幸せになったがまくんの様子を読もう。

○がまくんは、なぜ、幸せな気持ちになったのだろう。

☆読みを深めるための手立て

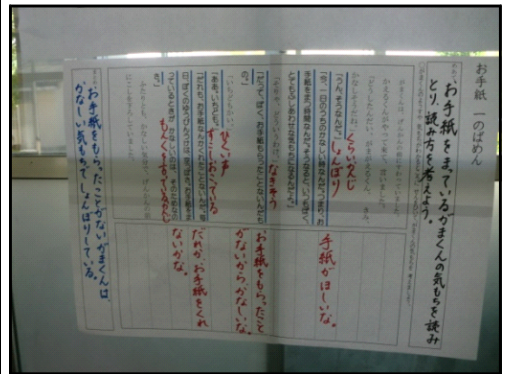
- ・声に出して読む、動作化、役割演技、ペープサート、挿絵等の方法により、想像を広げ、深めること



【自分の考えを表現する様子】



【話す子に体を向けて聞く様子】



【毎時間の既習図】